



Configuration Web サービスの使用

この章では、Configuration Web サービスを使用するために設定が必要な環境と、このサービスを使用する方法について説明します。

Configuration Web サービスは、HTTPS 上で REST インターフェイスとして実装されます。HTTP はサポートされていません。

Configuring REST Web サービスは、導入環境内のすべての ACS サーバで使用できます。ただし、ACS プライマリ インスタンスだけが、読み取り操作と書き込み操作をサポートするすべてのサービスを提供します。セカンダリ ACS インスタンスは設定データへの読み取り専用アクセスを提供します。

Monitoring and Report Viewer には、すべての REST アクティビティに対するメッセージと監査ログが表示されます。

ACS CLI での REST Web インターフェイスのイネーブル化

REST Web サービスを使用する前に、ACS で Web インターフェイスをイネーブルにする必要があります。ACS で Web インターフェイスをイネーブルにするには、ACS CLI から次のように入力します。

```
acs config-web-interface rest enable
```

`acs config-web-interface` コマンドの詳細については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/net_mgmt/cisco_secure_access_control_system/5.5/command/reference/cli_app_a.html#wp1887278

ACS CLI からの REST Web インターフェイスのステータス表示

Web インターフェイスのステータスを表示するには、ACS CLI から次のように入力します。

```
show acs-config-web-interface
```

`show acs-config-web-interface` コマンドの詳細については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/net_mgmt/cisco_secure_access_control_system/5.5/command/reference/cli_app_a.html#wp1890877

ACS Configuration REST サービスと対話するアプリケーションでは、REST サービスを認証するために管理者アカウントを使用できます。使用するアカウントに対する許可は、REST クライアントによって実行されるすべてのアクティビティを許可するように設定する必要があります。

サポートされるコンフィギュレーションオブジェクト

ACS の Rest PI は、ACS を設定するためのサービスを提供します。これは、設定機能ごとにまとめられています。ACS 5.5 では、ACS 設定の次の 5 つのサブセットがサポートされています。

- Common コンフィギュレーションオブジェクト

■ サポートされるコンフィギュレーションオブジェクト

- Users コンフィギュレーション オブジェクト、Hosts コンフィギュレーション オブジェクト、Identity group コンフィギュレーション オブジェクト。
- Network Device コンフィギュレーション オブジェクト
- Device Group コンフィギュレーション オブジェクト
- Device Group Type コンフィギュレーション オブジェクト
- 最大ユーザ セッション数

表 4-1 に、サポートされるコンフィギュレーション オブジェクトを示します。

表 4-1 サポートされるコンフィギュレーション オブジェクト

機能	サポートされる主なクラス	コメント
Common	Attribute Info	AV ペアのダイナミック属性とも呼ばれます。Attribute Info は、Protocol User 内で作成されます。
	ACS Version	Get メソッドだけをサポートしています。
	Service Location	getall メソッドだけをサポートしています。 プライマリ インスタンスとしての役割を果たす ACS インスタンスと、Monitoring and Troubleshooting Viewer を提供する ACS インスタンスを検索できます。
	Error Message	getall メソッドだけをサポートしています。 REST インターフェイスで使用されるすべての ACS メッセージコードとメッセージテキストを取得できます。
Identity	Protocol User	CRUD のすべて（作成、読み取り、更新、および削除）とクエリーをサポートします。
	Identity Group	CRUD のすべてとクエリーをサポートします。 クエリーは、特定のノードのサブグループを取得するために使用されます。各グループのユーザのリストは、ユーザに関してクエリーを実行することにより取得されます。
	Internal Host	CRUD のすべてとクエリーをサポートします。
Network Device	Network Device	CRUD のすべてとクエリーをサポートします。
Device Group	Network Device Group	CRUD のすべてとクエリーをサポートします。
Device Group Type	Network Device Group Type	CRUD のすべてとクエリーをサポートします。

この項の構成は、次のとおりです。

- 「ID グループ」 (P.4-3)
- 「Attribute Info」 (P.4-3)
- 「グループの関連付け」 (P.4-3)
- 「Device Info」 (P.4-4)

ID グループ

ID グループ オブジェクトは、ID グループ階層でノードを操作するために使用します。グループ名によって、階層内のノードのフルパスが定義されます。新しいノードを追加する場合、ノードの名前（フルパスを含む）は、そのノードを追加すべき階層内の場所を指定していることに注意する必要があります。たとえば、次のように入力します。

- All Groups:CDO:PMBU
- All Groups:CDO
- All Groups:CDO:PMBU:ACS-Dev



(注)

上位レベルの階層（親ノード）を作成してから、リーフ ノードを作成する必要があります。たとえば、階層 All Groups:US:WDC を作成するには、All Groups:US を作成してから、階層内で次のレベルの作成に進む必要があります。

特定のグループの子を取得するには、「start with All groups:CDO」としてフィルタを設定できます。

Attribute Info

AttributeInfo 構造は、属性名と属性値のペアの配列になっています。

属性名は、ユーザ デictionary を参照します。この dictionary で、値の型などの属性の定義を検索できます。属性の値は、dictionary の定義に従う必要があります。

次に、2 つの属性があるユーザに対する Java での表現の例を示します。

```
User user = new User();
    user.setDescription(description);
    user.setPassword(password);
    user.setName(userName);
        user.setAttributeInfo(new AttributeInfo[]{
    new AttributeInfo("Department", "Dev"),
    new AttributeInfo("Clock", "10 Nov 2008 12:12:34")
});
```

グループの関連付け

REST インターフェイス スキーマは、ユーザ オブジェクト上のグループ名プロパティとして、ID グループに対するユーザの関連付けを示します。

次に、ユーザを ID グループに関連付ける例を示します。

```
User user = new User();
    user.setIdentityGroupName("IdentityGroup:All Groups:Foo");
    user.setDescription(description);
```

```
user.setPassword(password);
user.setName(userName);
```

Device Info

次に、ネットワーク デバイス グループの設定およびネットワーク デバイスの作成に関連する情報の Java 表現の例を示します。これは、デバイス グループを定義するために `GroupInfo` オブジェクトを使用する良い例でもあります。

```
IPSubnetType ip1 = new IPSubnetType();
    ip1.setIpAddress("1.1.1.1-5");
    ip1.setNetMask(32);
    ip1.setIpSubnetExclude(new IPSubnetExcludeType().setIpAddress("1.1.1.3"));
IPSubnetType ip2 = new IPSubnetType();
    ip1.setIpAddress("3.3.3.1-5");
    ip1.setNetMask(32);
    ip1.setIpSubnetExclude(new IPSubnetExcludeType().setIpAddress("3.3.3.3"));

TACACSConnection tacacsCon = new TACACSConnection();
    tacacsCon.setSharedSecret("secret");
    tacacsCon.setSingleConnect("true");
    tacacsCon.setLegacyTACACS("true");

RADIUSConnection radiusCon = new RADIUSConnection();
    radiusCon.setSharedSecret("secret");
    radiusCon.setPortCoA(1700);
    radiusCon.setKeyWrap(true);
    radiusCon.setKeyEncryption("Key");
    radiusCon.setMessageAuthenticationCodeKey("AuthKey");
    radiusCon.setDisplayedInHex(false);

Device device = new Device();
    device.setName(deviceName);
    device.setDescription(deviceDescription);
    device.setGroupInfo(new GroupInfo[]{new GroupInfo("All
Locations:Chennai","Location"),new GroupInfo("All Device Types:Router","Device Type")});
    device.setSubnets(new IPSubnetType[]{ip1,ip2});
    device.setTacacsConnection();
    device.setRadiusConnection(radiusCon);
```

マスクまたは範囲を使用せずに単一 IP を作成するには、`IPSubnetType` を作成して、上記の例のように、このオブジェクトにサブネットを関連付けるだけです。



(注)

REST インターフェイスを使用してネットワーク デバイスを更新するときに、ネットワーク デバイスが関連付けられている少なくとも 1 グループについての情報を提供する必要があります。ネットワーク デバイスは複数のグループに関連付けられている可能性があります。提供されていないグループ情報は、自動的にデフォルト値で更新されます。

クエリー オブジェクト

REST インターフェイス スキーマは、基準およびその他のクエリー パラメータを定義するためのクエリー オブジェクトを公開しています。クエリ オブジェクトは、`Users`、`Identity Groups`、`Network Device`、`Network Device Groups`、`Internal Hosts`、および `Maximum User Sessions` に使用されます。クエリー オブジェクトには、次の項目に適用されるパラメータが含まれます。

- 「フィルタリング」 (P.4-5)
- 「ソート」 (P.4-6)
- 「ページング」 (P.4-6)

フィルタリング

クエリー オブジェクトを使用すると、フィルタ後の結果セットを取得できます。次の基準に基づいて、ユーザまたは ID グループをフィルタリングできます。

- 単純な条件：プロパティ名、操作、および値が含まれます。たとえば、name STARTS_WITH "A" とします。

フィルタでは、次の操作がサポートされています。

- CONTAINS
 - DOES_NOT_CONTAIN
 - ENDS_WITH
 - IS_EMPTY
 - EQUALS
 - NOT_EMPTY
 - NOT_EQUALS
 - STARTS_WITH
- *And* 条件：単純な条件のセットが含まれます。*And* 条件と一致するためには、すべての単純な条件が True に評価される必要があります。

次に「And」フィルタに対する XML ベースの例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
  <ns2:query xmlns:ns2="query.rest.mgmt.acs.nm.cisco.com">
    <criteria
      xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xsi:type="ns2:AndFilter">
      <simpleFilters>
        <propertyName>name</propertyName>
        <operation>STARTS_WITH</operation>
        <value>user</value>
      </simpleFilters>
      <simpleFilters>
        <propertyName>name</propertyName>
        <operation>ENDS_WITH</operation>
        <value>1</value>
      </simpleFilters>
    </criteria>
    <numberOfItemsInPage>100</numberOfItemsInPage>
    <startPageNumber>1</startPageNumber>
  </ns2:query>
```



(注)

XML タグ numberOfItemsInPage は、パッチ 3 で numberOfItemsInPage に (大文字「O」が小文字「o」に) 変更されました。この変更を ACS に反映するには、パッチ 3 をインストールする必要があります。

次に「And」フィルタに対する Java ベースの例を示します。

```

Query query = new Query();
query.setStartPageNumber(1);
query.setNumberOfItemsInPage(100);

SimpleFilter simpleFilter = new SimpleFilter();
simpleFilter.setOperation(FilterOperation.STARTS_WITH);
simpleFilter.setPropertyName("name");
simpleFilter.setValue("user");

SimpleFilter simpleFilter1 = new SimpleFilter();
simpleFilter1.setOperation(FilterOperation.ENDS_WITH);
simpleFilter1.setPropertyName("name");
simpleFilter1.setValue("1");

AndFilter andFilter = new AndFilter();
andFilter.setSimpleFilters(new SimpleFilter[] { simpleFilter,
        simpleFilter1 });

query.setCriteria(andFilter);

```

ソート

クエリー オブジェクトを使用して、結果をソートできます。次の基準に基づいてソートを実行できません。

- ソートの基準とする 1 つのプロパティ
- ソートの方向（昇順または降順）

ページング

次のページング パラメータで、クエリー オブジェクトを設定できます。

- 要求するページのページ番号
- ページ内のオブジェクト数

ページングは、ステートレスです。要求されたページは、要求ごとに新規計算されます。このため、オブジェクトが同時に追加または削除された場合、ページングによってオブジェクトがスキップされたり、オブジェクトが 2 回返されることがあります。

要求構造

ACS REST 要求は次の項目から構成されます。

- URL
- HTTP メソッド
- コンテンツ：要求するメソッドに適用される場合は、ACS オブジェクトが含まれます。ACS オブジェクトは、XML で表現されます。

URL パス

URL には、次の項目が含まれます。

- サービス名 : Rest
- パッケージ名 : Identity、Common または Network Device
- オブジェクトタイプ : User、Identity Group など
- オブジェクト ID は、GET および DELETE メソッドで有効です。
- 操作名は、クエリーなどの CRUD 以外の操作で必要です。

表 4-2 には、各オブジェクトの URL を示します。

オブジェクト ID

オブジェクトは、名前またはオブジェクト ID によって識別されます。基本オブジェクト キーはオブジェクト名です。また、GET および DELETE メソッドではオブジェクト ID を使用できます。POST メソッドと PUT メソッドでは、ID を含むオブジェクト自体が取得されます。

次の方法により URL で ID を指定できます。

- キーとしての名前 : Rest/{package}/{ObjectType}/name/{name}
- キーとしてのオブジェクト ID : Rest//{package}/{ObjectType}/id/{id}
- オブジェクトタイプごとにインスタンスが単一の場合、キーは不要です。例 :
REST/Common/ACSVersion

表 4-2 URL の概要表

オブジェクト	URL	備考
ACS Version	../Rest/Common/ACSVersion	1 つのオブジェクトが存在
Service Location	../Rest/Common/ServiceLocation	—
Error Message	../Rest/Common/ErrorMessage	—
User	../Rest/Identity/User/...	一部のメソッドでは、URL に追加のデータがあります。表 4-3 を参照してください。
Identity Group	../Rest/Identity/IdentityGroup/...	一部のメソッドでは、URL に追加のデータがあります。表 4-3 を参照してください。
Network Device	../Rest/NetworkDevice/Device/.....	一部のメソッドでは、URL に追加のデータがあります。表 4-3 を参照してください。
Device Group	../Rest/NetworkDevice/DeviceGroup/.....	一部のメソッドでは、URL に追加のデータがあります。表 4-3 を参照してください。
Internal Host	../Rest/Identity/Host/.....	一部のメソッドでは、URL に追加のデータがあります。表 4-3 を参照してください。

HTTP メソッド

HTTP メソッドは、設定操作 (CRUD : 作成、読み取り、更新、および削除) にマッピングされます。一般的な固有のメソッドは、URL 内で指定されず、HTTP 要求メソッドによって決定されます。その他の場合は、URL に設定操作を追加する必要があります。HTTP メソッドは、ACS 操作にマッピングされます。

- HTTP GET : 1 つのオブジェクトまたは複数のオブジェクトを表示します。
- HTTP POST : 新しいオブジェクトを作成します。
- HTTP DELETE : オブジェクトを削除します。
- HTTP PUT : 既存のオブジェクトを更新します。PUT は、外部のメソッド (CRUD 以外) を呼び出すためにも使用されます。

CRUD 以外の操作に対して HTTP PUT メソッドを使用する場合は、URL で要求する操作を指定します。これは、更新のための PUT メソッドからのメッセージを区別するためにも使用されます。キーワード「op」は、次のように URL に含まれます。

Rest/{package}/{ObjectType}/op/{operation}

例 : /Rest/Identity/IdentityGroup/op/query

表 4-3 では、プライマリ ACS REST メソッドと、HTTP メッセージに対する各メソッドのマッピングについて説明します。

表 4-3 HTTP メソッドのまとめ

機能	HTTP メソッド	URL	要求するコンテンツ	成功時の応答
getAll	GET	/{ObjectType}	なし	オブジェクトの収集
getByName	GET	/{ObjectType}/name/ {name} ¹	なし	オブジェクト
getById	GET	/{ObjectType}/id/{id}	なし	オブジェクト
create	POST	/{ObjectType}	オブジェクト (注) 作成では、オブジェクト ID プロパティを設定しないでください。	オブジェクト ID を含む REST 応答結果。
delete	DELETE	/{ObjectType}/name/ {name} ¹	なし	REST 結果
delete	DELETE	/{ObjectType}/id/{id}	なし	REST 結果
update ²	PUT	/{ObjectType}	オブジェクト	REST 結果
Query	PUT	/{ObjectType}/op/query	QueryObject	オブジェクトのリスト

1. URL 内の名前は、フルネームです。ACS REST サービスでは、ワイルドカードまたは正規表現はサポートされていません。
2. Update メソッドは、要求の本体で提供されたオブジェクトで、オブジェクト全体を置き換えます。ただし、機密プロパティを除きます。



(注)

MAC アドレスを使用する GET および DELETE メソッドは Host オブジェクト タイプにだけ使用できます。例 : /Host/macaddress/{macaddress}。これらのメソッドの name 属性は、MAC アドレスに置き換えられます。これは、Host オブジェクトが name 属性を持たないためです。



(注) 障害時の応答については、[ACS REST 結果](#)を参照してください。

応答構造

REST 要求に対する応答は、Web サービスによって返される HTTP ステータス コードとその他のデータを含む標準 HTTP 応答です。また、応答には、要求のタイプに従って、ACS REST 結果オブジェクトまたは ACS コンフィギュレーション オブジェクトが含まれることがあります。

応答の本文に予想されるオブジェクトのタイプを確認するには、HTTP ステータス コードをチェックする必要があります。

- 401 と 404 を除く 4xx HTTPS ステータス コードでは、REST 結果オブジェクトが返されます。
- 500 以外の 5xx ステータス コードでは、メッセージ コンテンツに、サーバエラーについて説明するテキストが含まれます。
- 500 HTTP ステータス コードでは、REST 結果が返されます。
- 200 と 201 の HTTP ステータス コードでは、特定のメソッドまたはオブジェクト タイプに応じたオブジェクトが返されます。
- 204 HTTP ステータス コードでは、オブジェクトは返されません。

HTTP ステータス コード

ACS では、次のタイプのステータス コードが返されます。

- 成功は 2xx
- クライアント エラーは 4xx
- サーバエラーは 5xx

ACS では、次のタイプのステータス コードは返されません。

- 1xx
- 3xx

HTTP ステータス コードは、HTTP 応答ヘッダー内と、REST 結果オブジェクト内で返されます。

表 4-4 には、ACS によって返される HTTP ステータス コードを示します。

表 4-4 HTTP ステータス コードの用途

ステータス コード	メッセージ	ACS での使用	備考
200	Ok	取得、作成、およびクエリーの成功	—
204	OK with no content	削除および更新の成功	応答の本体ではデータが返されません。

表 4-4 HTTP ステータス コードの用途 (続き)

ステータスコード	メッセージ	ACS での使用	備考
400	Bad Request	要求エラー：オブジェクトの検証の失敗、XML 構文エラー、およびその他の要求メッセージに関するエラー	要求に不正な構文が含まれているか、要求を実行できません。 たとえば、すでに存在する名前で作成しようとした場合、オブジェクトの検証は失敗します。 詳細な原因は、REST 結果オブジェクトに示されていることがあります。
401	Unauthorized	認証の失敗またはタイムアウト	403 エラーに似ていますが、特に、認証が失敗した場合またはクレデンシャルを使用できない場合に使用されます。
403	Forbidden	ACS がセカンダリであり、要求を実行できないか、または管理者の許可によって操作が認められていません。	要求は有効ですが、サーバが要求への応答を拒否しています。 401 エラーとは異なり、認証による影響はありません。また、このエラーは、読み取り以外の要求がセカンダリ インスタンスに送信された場合にも表示されます。
404	Not Found	URL が正しくないか、REST サービスがイネーブルになっていない場合。	—
410	Gone	リソースを使用できなくなりました。	存在しないオブジェクトに対して要求が実行されました。たとえば、存在しないオブジェクトを削除しようとした場合。
500	Internal Server Error	特定の HTTP コードがないすべてのサーバエラー。	—

ACS REST 結果

REST 要求の HTTP 応答には、要求されたオブジェクトまたは REST 結果オブジェクトが含まれています。詳細については、表 4-3 を参照してください。ACS 結果には、次の項目が含まれます。

- HTTP ステータス コード
- HTTP ステータス テキスト
- ACS メッセージ コード
- ACS メッセージ
- 成功した CREATE メソッドのオブジェクト ID

返されるオブジェクト

ACS は、GET メソッドおよびクエリー操作に対してオブジェクトを返します。返されるオブジェクトのタイプは、要求 URL によって決定されます。

GET メソッドが複数のオブジェクトを返す場合、これらのオブジェクトは応答に含まれます。返されるリストが長すぎる場合は、フィルタリング オプションまたはページング オプションを使用する必要があります。

WADL ファイル

WADL ファイルには、すべてのオブジェクトに対するオブジェクト構造（スキーマ）とメソッドが含まれます。

WADL ファイルは、主に文書化に役立ちます。WADL ファイルを使用して、クライアント アプリケーションを生成することはできません。

WADL ファイル構造は、W3C 仕様に従っています。詳細については、<http://www.w3.org/Submission/wadl/> を参照してください。

WADL ファイルをダウンロードするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** ACS ユーザ インターフェイスで、[System Administration] > [Downloads] > [Rest Service] の順に進みます。
- ステップ 2** ACS Rest Service WADL ファイルの下で、[Common] または [Identity] をクリックし、ローカル ドライブにファイルを保存します。
-

スキーマ ファイル

ACS には、ACS 5.5 REST インターフェイスでサポートされるオブジェクトの構造を記述する 4 つの XSD ファイルが付属しています。

次の 4 つの XSD ファイルがあります。

- 次のオブジェクトが記述された Common.xsd
 - Version
 - AttributeInfo
 - Error Message
 - ResultResult、RestCreateResult
 - BaseObject
 - Service Location
 - Status
 - RestCommonOperationType
- 次のオブジェクトが記述された Identity.xsd
 - Users
 - Hosts

- IdentityGroup
- クエリー オブジェクトの構造が記述された Query.xsd
- 次のオブジェクトが記述された NetworkDevice.xsd
 - Network Devices
 - Network Device Groups
 - Network Device Group Types

スキーマ ファイルは、WADL ファイルのダウンロードと同じ方法でダウンロードできます。JAXB などの使用可能なツールとともにスキーマを使用して、スキーマ クラスを生成できます。

HTTP クライアントを開発し、またはサードパーティ HTTP クライアント コードを使用して、XSD ファイルから生成されたスキーマ クラスと統合できます。



(注)

XML をコーディングしたり手動で作成したりするよりも、XSD ファイルから REST クライアント クラスを生成することを強く推奨します。

コードの例

ACS にはクライアント アプリケーション用のコード例が用意されており、ACS REST インターフェイスと連携動作するアプリケーションの開発に役立ちます。コード例は、WADL ファイルおよびスキーマ ファイルと同じ方法でダウンロードできます。

コード例は、Apache HTTP Client (<http://hc.apache.org/httpcomponents-client-ga/index.html>) および XSD ファイルを利用した JAXB (xjc コマンド) で生成される Java コードに基づいています。次のコード例が含まれています。

- ACS バージョンの取得
- すべてのユーザの取得
- すべてのサービス ロケーションの取得
- フィルタリングしたユーザ リストの取得
- エラー メッセージのリストの取得
- ID と名前によるユーザの取得
- ユーザの作成、削除、更新
- ID グループの作成、削除、および更新
- 名前または ID による ID グループの取得
- ID グループのサブツリーの取得
- ID グループのすべてのユーザの取得
- ネットワーク デバイスの作成、削除、更新
- ID と名前によるネットワーク デバイス ID の取得
- すべてのネットワーク デバイスの取得
- ネットワーク デバイスのクエリー
- ネットワーク デバイス グループの作成、削除、更新
- ID または名前によるネットワーク デバイス グループの取得

- ネットワーク デバイス グループのサブツリーの取得
- ネットワーク デバイス グループのクエリー
- ネットワーク デバイス グループ タイプの作成、削除、更新
- ID と名前によるネットワーク デバイス グループ タイプの取得
- すべてのネットワーク デバイス グループ タイプの取得
- ネットワーク デバイス グループ タイプのクエリー
- 内部ホストの作成、削除、更新
- ID または名前による内部ホストの取得
- すべての内部ホストの取得
- 内部ホストのクエリー

■ コードの例